

# 自衛防災組織等の教育・研修のあり方調査検討会（第1回）

## 議事要旨

### 1 開催日時

平成 29 年 8 月 30 日（水） 14:00～16:00

### 2 開催場所

東京都千代田区霞が関 3 - 1 - 1  
財務省 1 階 123 会議室

### 3 配付資料

- 資料 1 自衛防災組織等の教育・研修のあり方調査検討会委員等名簿
- 資料 2 自衛防災組織等の教育・研修のあり方調査検討会開催要綱（案）
- 資料 3 検討会の進め方について
- 資料 4 自衛防災組織等の標準的な教育テキストの概要について
- 資料 5 標準的な教育テキスト（中間案）を用いた講習について
- 資料 6 行政機関における自衛防災組織等への教育訓練アンケート結果（速報）
- 資料 7 外部機関による講習（危険物保安技術協会）
- 資料 8 外部機関による講習（一般財団法人海上災害防止センター）

- 参考 1 自衛防災組織等の教育・研修のあり方調査検討会中間報告書
- 参考 2 標準的な教育テキスト（中間案）

### 4 議事

開催要綱が確認された後、委員の互選により小林委員が座長に選出された。また、小林座長により、西委員が座長代理に指名された。議事概要については以下のとおり。

#### (1) 検討会の進め方について

資料 3 により事務局から説明が行われた。

#### (2) 標準的な教育テキストの概要について

資料 4 及び参考 2 により事務局から説明が行われた。  
質疑等の概要は以下のとおり。

- 薄層ボイルオーバーという名称をテキストに記載すべきである。
  - 調査のとおり、ボイルオーバーと薄層ボイルオーバーではメカニズムが違うので、そこははっきり書いた方がよい。混乱しないように。
  - ボイルオーバーを恐れすぎると消防活動が何もできなくなってしまう。ボイルオーバーと薄層ボイルオーバーでは、時間的な違いもあると思うので、書き方を工夫する必要がある。

→薄層ボイルオーバーについては指摘のとおり記載した方がよい。泡の混合については、十勝沖の地震の時に、全国から原液が集まってきたが、見た目では種類が分からない。テキストでは、もう少し分かり易く、「泡原液の受取りの時から分類して、混合することのないように泡原液車に入れる」など、説明した方が現実的だと思う。

- (3) 標準的な教育テキスト（中間案）を用いた講習について  
資料5により事務局から説明が行われた。  
質疑等の概要は以下のとおり。

○講習は9月～10月を予定している。この期間の中で、実施いただけるところがあれば、事務局まで連絡いただきたい。

→10月12、13日に神戸市の防災要員実務研修会があるので、そこでこのテキストを活用して、アンケートへの協力も可能かと考えている。

- (4) 行政機関における自衛防災組織等への教育訓練の実態の把握と課題の整理について  
資料6により事務局から説明が行われた。

- (5) 外部機関による講習について  
資料7により伊藤委員から、資料8により萩原委員から説明が行われた。  
質疑等の概要は以下のとおり。

○今年、海上災害防止センター、神奈川県、神奈川県LPガス協会が協力して、高圧ガスに特化した訓練を実施する。これは、2日間のコースで、新しく実験的に実施するもので、時期は10月10、11日で、場所は第二海堡である。訓練規模は町中で起こるような事故で、コンビナートに比べると小さい規模のレベルである。見学が可能かどうかは海上災害防止センターと調整するが、可能であれば皆さんに案内したいと思っている。

→海上災害防止センターとしても、今後の検討会の日程と第二海堡での訓練日程が合えば、皆さんに見ていただきたいと思っている。

→高圧ガス事故の標準訓練コースのようなものあるのか。

→高圧ガスでできる訓練は4つ程ある。LPタンクの冷却、元弁の閉鎖、供給の遮断方法などの訓練。パイプラインが破断して噴き上げた場合の制御の訓練。防液堤が燃えていてガスも噴いているような組み合わせの訓練。荷役施設でのタンクローリーのガス噴出火災訓練である。

- (6) その他

○今後の検討会の日程や場所については、今回と同様に開催の約1か月前までに事務局から案内する。

○実践的な訓練が非常に重要である。座学についてはテキストで十分なものが出来ていると思われるが、実践に勝るものはない。ただ、訓練を行お

うとすると、どうしてもお金が必要になる。例えば、石油交付金は泡や消防車両などのハードに対して使うことは出来るが、訓練などのソフトには使うことが出来ないはずである。今後は、訓練に対しても使うことが出来る制度にしていくよう要望していきたいと思っている。

→交付金は消防庁で扱っていない。担当しているところと相談して頂きたい。

- 標準的な教育テキストを研修に結びつけていくには、都道府県、市町村の自前のもの他にもKHK、海上災害防止センターがある。今までは標準がなかったので、多少の違いは問題なかったが、それぞれの研修で矛盾が生じてはいけない。このことに注意して、テキストの内容を検討して頂きたい。

## 5 閉 会